

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市地域連携保全活動協議会 開催結果の要旨

会 議 名	第2回 木津川市地域連携保全活動協議会		
日 時	平成24年7月21日（土） 午後1時30分から午後4時	場 所	木津川市役所 第2北別館会議室
出 席 者	委 員	■森本 幸裕（会長）、■深町 加津枝（副会長） ■長尾 輝冶、■田邊 英夫（代理出席：鹿背山元気プロジェクト 中村 伸之）、■松岡 幸男、■岩井 照芳、 ■吉田 博次、■田中 智子（代理出席：こどもエコクラブサポーターの会 立花 志保）、■矢田本 房和、■吉村 文彦、 ■辻村 徳夫、□木俣 知大、■武田 学、■平塚 正純、 ■尾崎 直利 ※□：欠席者	
	その他出席者		
	事 務 局	尾崎課長、奥田係長、西村主任、栗本（ひょうご環境創造協会）	
議 題	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 （1）報告事項 ①平成23年度現地調査報告について （2）協議事項 ①木津川市地域連携保全活動計画について ②第1回フォーラムについて （3）その他 4. 閉会		
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 会長挨拶 森本会長から、第2回木津川市地域連携保全活動協議会の開催にあたり、挨拶があった。 3. 議事 （1）報告事項 ①平成23年度現地調査報告について（配布資料 資料1） 事務局より、資料1を基に説明し質疑応答を行った。 （2）協議事項 ①木津川市地域連携保全活動計画について（配布資料 資料2）		

	<p>事務局より、資料2を基に説明し質疑応答を行った。</p> <p>②第1回フォーラムについて(配布資料 資料3)</p> <p>事務局より、資料3を基に説明し質疑応答を行った。</p> <p>(3) その他</p> <p>次回の協議会はフォーラム終了後を予定し、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>4. 閉会</p>
<p>審議経過要旨</p>	<p>1. 開会</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>審議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①平成23年度現地調査報告について(配布資料 資料1)</p> <p>事務局より、資料1に基づいて学研木津北地区での動植物調査の現在までの状況について報告し質疑応答を行った。</p> <p>主な意見・質疑等は次のとおり。</p> <p>(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)</p> <p>○注目すべき種も含め、今回の報告内容以外に生きもの等で何か考えられるのか。</p> <p>→秋の調査はこれからであり、それ以外の把握はできている。中でも両生類・鳥類は把握できている。</p> <p>○山菜等の里山の恵みはどうか。</p> <p>→山うどは結構あるが、案外わらびが少ない印象を受けている。</p> <p>○実際に歩かれている方もいると思うが、気づかれた点はないか。</p> <p>→植物はいろいろとあり、チョウ・トンボなどいろいろといるが、写真で記録することが難しく話題提供まで行うことは難しい。</p> <p>○フユイチゴのような情報も里山活動をする中で得ているのか。</p> <p>→鹿背山倶楽部では、摘み取ってジャムにしたりしている。</p> <p>○蜂もいろいろといるが、調査で感じられたことはどうか。</p> <p>→今年は、オオスズメバチが多いように思われる。</p>

○貴重なものの整理は、この資料でも分かるが、外来種のように、この地域にない方がいいものもまとめておくべきでは。

→今後、調査した全てのリストをまとめていきたい。

○みなさんが、現場の声を集約する方法はあるのか。

→今回は報告内容であるが、とりまとめはタイミングを見て、次回以降で考え方も含め説明していきたい。

○竹林が増えている状況について、お気づきの点等はあるのか。

→破竹・真竹を震災支援の材として活用しているが、孟宗竹の勢いが強い。

→孟宗竹であっても、周辺に樹木等が混成していない箇所もあるので、人の手で加えられた可能性もある。

(2) 協議事項

①木津川市地域連携保全活動計画について(配布資料 資料2)

事務局より、資料2に基づいて地域生物多様性保全計画について説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)

○生物多様性の計画であるが、生きものが多く住む空間を作っていくことが目的なのか。

→里山には、生きものの賑わいがあるという意味であり、その中で貴重種はシンボリックなもの。当然これら以外にも多くの生きものがいる空間である。

○ミツバチの巣を置いている。西洋ミツバチを持ってくることはいいのか。

→生物の世界なので絶対というものはないが、侵略性が無いことが大事である。外来種もコントロールができるのであればいいのではないかと。

○孟宗竹は生産過程で広がってきた。生活に結びつくような使い方ができることがポイントであり、広がりのある活用が継続性にもつながる。

○オオタカへの影響について、クリーンセンターができれば、カラスが増えるという噂を聞いたことがある。クリーンセンターのアセスメントなども情報共有できないか。

○道について提案があるが、そんなにお互いを行き来することはないので

はないか。それよりも尾根道をハイキングコースにするといった方が現実味があるのではないか。道を整備することで、オフロード車両が入ってくることもあるので、目的を持った道整備が必要である。

○道については、活動用・散策用というように、作る機能を分けていくことが必要では。張り巡らせることだけが重要でない。

○ワークショップで、どういった道を作るのか、議論してもいいのでは。知恵を出し合ってはどうか。

○子どもたちを連れて歩くには、人を中心に考えた道ならば安心して歩けるのでありがたい。

○鹿背山区では、市道2号の復旧要望をしている箇所もあり、再度要望を準備している。

→行政の方も地元と話させていただく。

○生物多様性の観点から、放っておけば無くなるアカマツについて、この地域にはそれなりにあるが、保全するためには、里山の資源を利用し続けることが必要であり、持ち出すことが本来の姿である。最低限の道は、活動している団体でも南北に離れた箇所で行っているところもあり必要と考える。

○資料のPDCAサイクルの中で、チェックはどういうイメージなのか。やり方によって、いろいろとチェックの方法ができる。

→チェックは現地でみんなで回れるような機会があってもおもしろいのでは。

→具体的なイメージはないが、目を変えることで、その団体の振り返りの場にもなってくるのでは。

○植栽について、この地域でとった苗木を基本として考えるべき。

→管理の問題はあるが、貴重種を育てていくのも保全のひとつになるのでは。

○道等を整備をすることは大事だが、今の取組も含め、財源措置はあるのか。

→現在の計画づくりは、環境省の委託事業として行っている。

○散策道については、所有者との関係はあるのか、無いのか。

→UR所有地について、まず里山維持をしていきたいと考えている。

○長期目標が大事である。みんなに分かりやすく、かつ明確にすることである。そうすれば、短期目標が見えてロードマップができるのでは。

○道が必要なことは理解しているが、フィールドで具体的に何をやるのかを考えて検討しては。安全・管理面は、行政・URも含めて考えていくべきでは。

→道の管理と造る面との両方からの視点が必要であり、URの支援も必要ではないか。

○今までは都市的開発が中止され負の遺産の考えであったが、今は里山として魅力をたくさん見つけているので、今後はしっかり情報発信をしていきたい。ただし資料の取り扱いについては注意していく。

○道については、継続的な管理・目的にあったものが必要である。散策だけでは、道はすぐに草に覆われてくるので、継続した人の確保が必要であり、市も支援してほしい。

また、現在の取組でも、収穫の時期などに里山に彩りが生まれてくる。これは里山景観としてはいいものである。

→人の確保は計画の中でも大切な要素ではないか。

○オオタカの餌場づくりとかも、市でイベント的にして、里山活動のきっかけづくりとしてはどうか。

○計画だけでなく具体的に示していかないと前には進んでいかない。地域の人々の理解を得ていく必要がある。

人が集ってくることになれば、つながりが大切であり発展につながるが、地域内で出会うことがあれば、ひと言でも声を交わしていくことが大事でないか。

○それぞれのグループで年代が偏っている。人も多様性があることで持続的を構築できるのでは。そのためには、道はいいこと。例えば、共通の活動日を設けて草刈りをするのもひとつであり、新たな住民とも一緒に進めていってほしい。

○道について利便性を追求することも大事だが、その一方でマイナス面もあるので、そこはみんなで議論が必要である。

○城跡の整備をしているが、荒れた状態から今の状態にまで整備してきた。

山は、管理をしないと、道はすぐ山の一部となる。単に興味のある人を集めるよりも、楽しみの部分を設け、子どもたちを巻き込むようなことをしないと、持続していくことは難しい。

鹿背山には城跡以外にも、文化的・歴史的に掘り下げていけば、おもしろい話がある魅力ある場所である。

ただ、単なる道づくりだけでは、活動メンバーの高齢化もあり、活動自体がままならない。

○文化・歴史について、道を整備していることが環境を良くしている点について意識してもいいのでは。少し視点を変えることでつながってくるものがある。

他の活動も、それが直接的ではないが、結果的につながってくる。人と自然の関わりをいかに良くしていくかということは、生物多様性に取り組むことにもつながることになる。

生きもの側の環境が揃ってきているので、みんなが大切にしているフィールドで上手くつながる整理をしていきつつ、緊急性の部分や現地とあわせながらやってみてはどうか。

○八王子恵比寿神社が北地区の中心に位置する。江戸時代の絵図では鹿背山の中心地となっており、そのあたりも掘り起こしてもおもしろいのでは。

②第1回フォーラムについて(配布資料 資料3)

事務局より、資料3に基づいて第1回フォーラムについて説明し質疑応答を行った。

主な意見・質疑等は次のとおり。

(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)

○11月くらいに、放置竹林で震災復興支援をテーマにしたシンポジウムを計画しており、一緒に取り組めないか。

→内容も含め、相談させてほしい。

○鹿背山の住民にしっかりとPRするべき。地元の理解を得ることが大事
→重要な視点である。

○地元の理解も重要であるが、地元にはそれぞれに思いもあるのが実情ではないか。

(3) その他

次回の協議会はフォーラム終了後を予定し、事務局より後日、通知するこ

	ととした。 4. 閉会
その他特記事項	随行者10人、傍聴者1人